

2) 筋圧形成

筋圧形成を行う順序に決まりはないが、次の例のように一定範囲ごとに分割して行う。

- 上顎：前歯部・臼歯部・上顎結節部
- 下顎：唇側前歯部・舌側前歯部・舌側臼歯部・頬側臼歯部



モデリングコンパウンド印象材を用いた筋圧形成印象法を知ろう

①各種コンパウンド



プレートタイプとスティックタイプとがある。スティックタイプの融点は、茶→緑→ピンクの順に高い。

②コンパウンドの築盛



バーナーの火にかざして軟化させたモデリングコンパウンド印象材を各個トレーの辺縁に盛りつける。このとき、印象材がトレーの内面に入り込まないように注意する。

③トーチで軟化



軟化が不足していたり、一度筋圧形成を行った部分を再度印象採得する際は、アルコールトーチを用いて軟化させる。

④ウォーターバスに浸漬



火炎で軟化させたモデリングコンパウンド印象材の温度を下げるために印象材指定の温水（55℃前後）に浸漬する。これは、患者に火傷をさせないためと、印象材表面のべたつきを抑えるためである。

⑤トレーの挿入



トレーを挿入する場合は、軟化したコンパウンドが最後に入るよう、トレーをやや傾けながら口腔内に挿入する。挿入後、トレーを所定の位置に保持しながら、機能運動を行わせる。印象材が硬化したら、トレーを取り出す。

⑥過剰部分の除去



トレーの内面に流れたコンパウンドは、ナイフなどで除去する。その後、③～⑥の作業を繰り返す。



上顎後縁の印象は？

トレーの後縁は印象材が流動して十分な加圧ができないため、床後縁部の封鎖が十分に期待できない。そのためコンパウンドで床後縁部を加圧するか、トレーの後縁を5mm程度、床外形予想線より後方に設定して床後縁部を加圧できるようにする。



コンパウンドで後縁部を加圧



上顎後縁を延ばした各個トレーで後縁部を加圧



Points

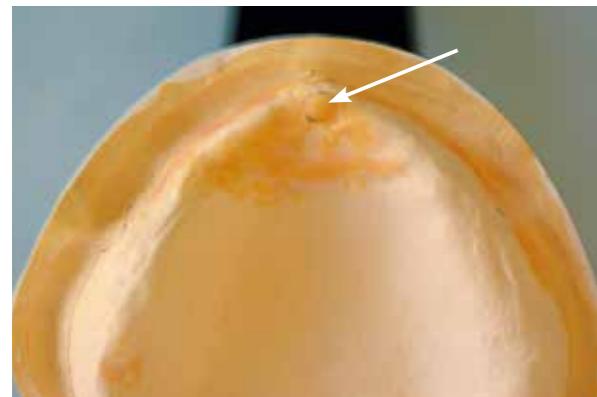
- ・印象採得した形態はそのまま義歯の形態になることを忘れずに！
- ・筋圧形成は義歯の辺縁の形態を作るつもりで行うこと！

2) 咬合採得時や試適時にろう堤および排列の修正を少なくするには？

(1) 唇舌的位置

- ・ろう堤製作時の解剖学的指標：切歯乳頭

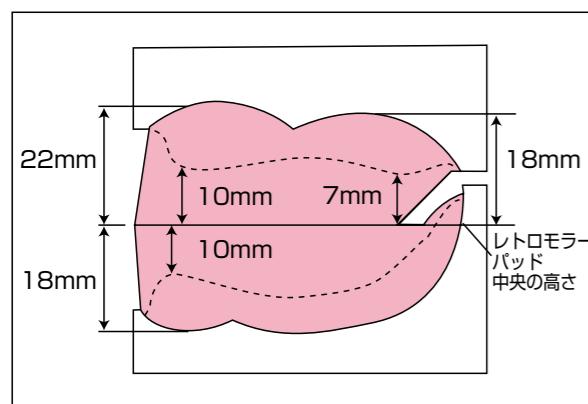
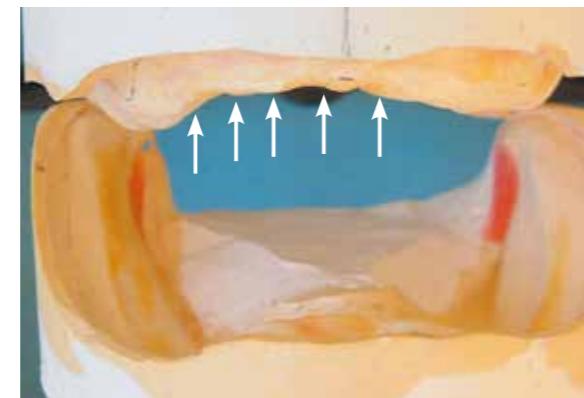
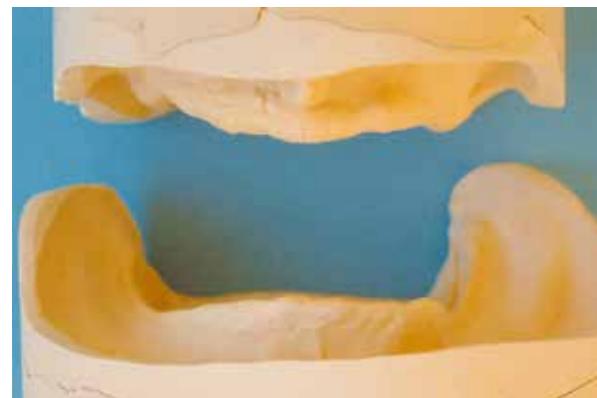
中切歯切端を切歯乳頭中央部から前方約10mmに設定する。



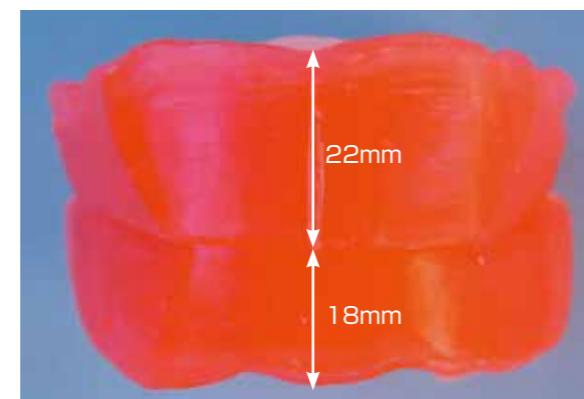
(2) ろう堤の高さ

- ・前歯部の吸収が著明な場合の注意

左図のような場合は前歯部ろう堤の高さは歯槽頂より10mmでよいが、右図のように前歯部が大きく吸収した症例では、口腔前庭最下点からの距離や、旧義歯の高さをろう堤の高さの参考としたほうが修正は少ない。



ろう堤の標準的な寸法



2. 臼歯部

目的 機能の回復！

どこに臼歯部人工歯を排列すれば総義歯は安定し、機能が回復されるのか？

1) 総義歯の安定の診察法は？

- ①義歯を口腔内に挿入→臼歯部人工歯を一歯ずつ手指で押して義歯の動搖や脱離（片側性均衡の成立）の有無を診察する。



片側性均衡がとれている状態。



片側性均衡がとれていない状態。

- ②ロールワッテを介在しても義歯の安定を確認できる。



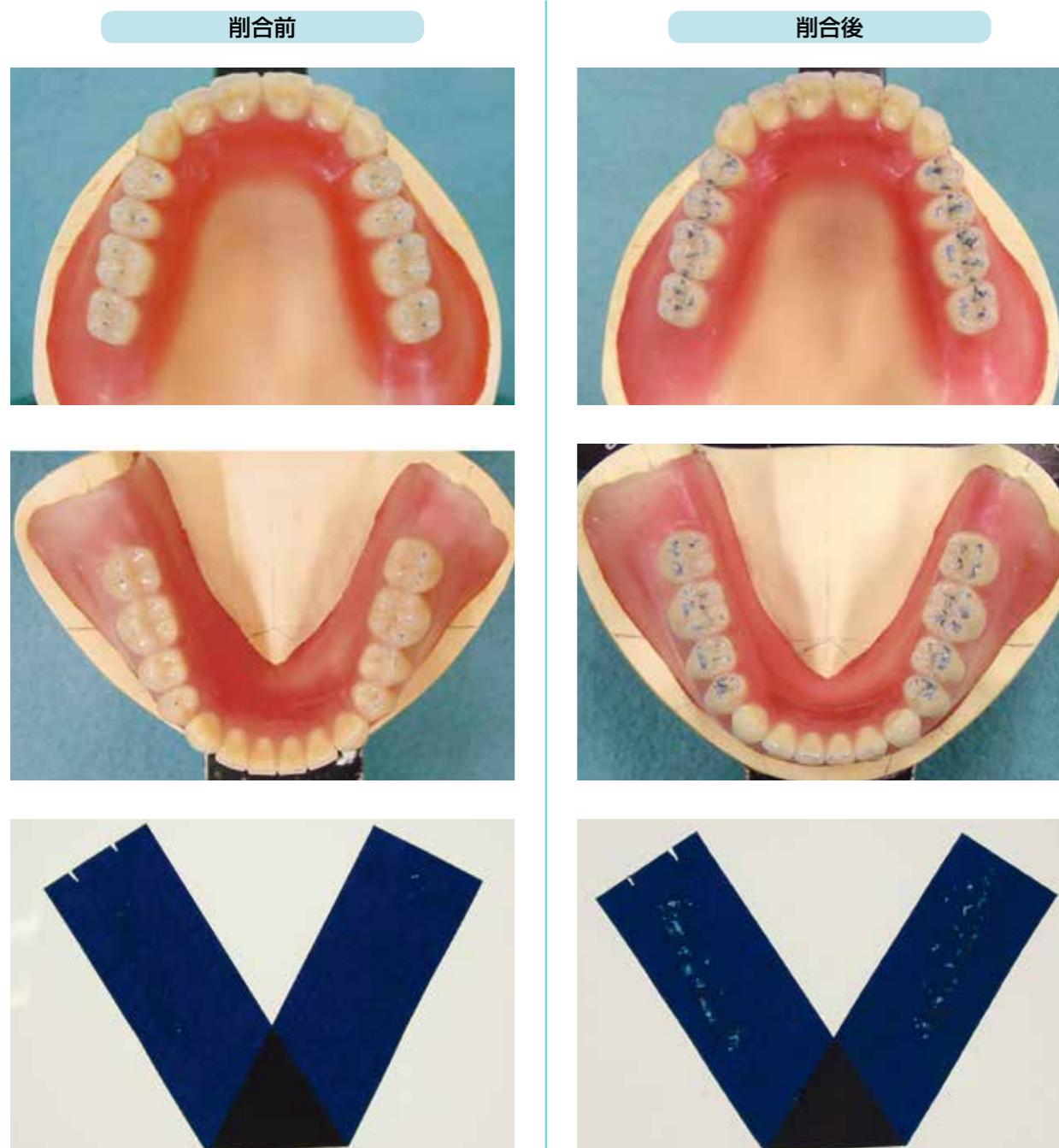
厚みのあるロールワッテを介在して咬合し、均衡側の接触がなくても義歯が転覆せず安定している（片側性均衡がとれている）状態。



厚みのないロールワッテを介在して咬合し、均衡側が接触して安定している（両側性均衡がとれている）状態。

2. 人工歯削合はこう行う

1) 中心咬合時における削合



咬合紙

赤色の咬合紙で偏心運動時の咬合接触状態を印記した後に、青色の咬合紙で中心咬合時の咬合接触状態を印記する。

人工歯の着色部だけではなく、咬合紙の色の抜けている部分も観察する。



- ▶ 対合歯と強く当たっている部位と、ただ咬合紙がこすれている部位を見極めなければならない。
 ・強く当たっている部位はドーナツ状に印記され、中央が抜けている。



対合歯と強く接触している部位。



咬合紙の色が少し付いているものの、対合歯とは接触していない部位。

- ▶ 中心咬合時の削合部位は下記の3つである。
 ・小窩に近い隆線
 ・裂溝に近い隆線
 ・辺縁隆線



小窩に近い隆線



辺縁隆線



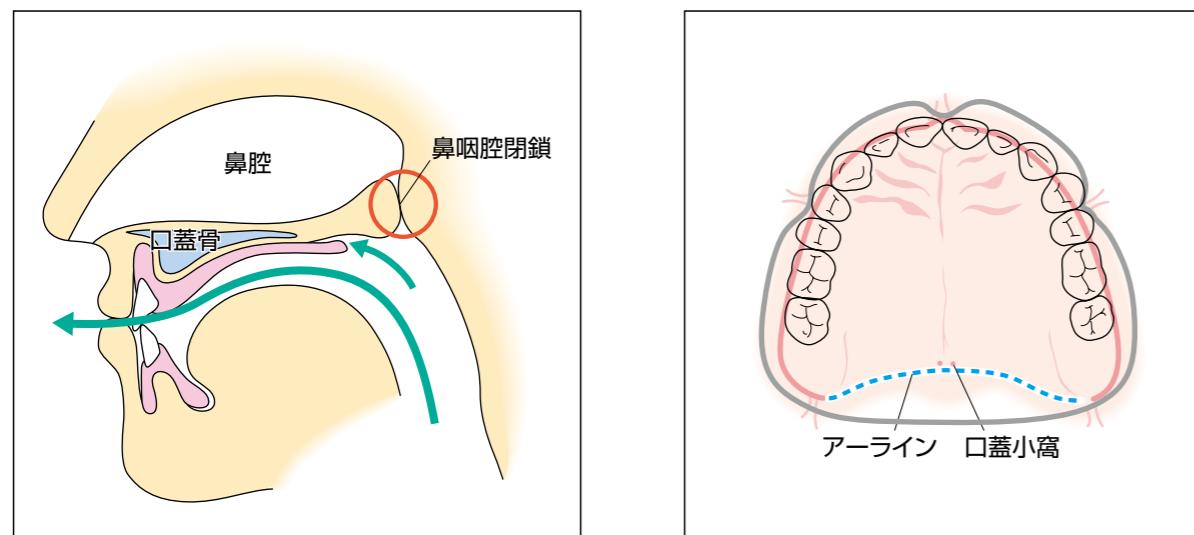
裂溝に近い隆線



辺縁隆線

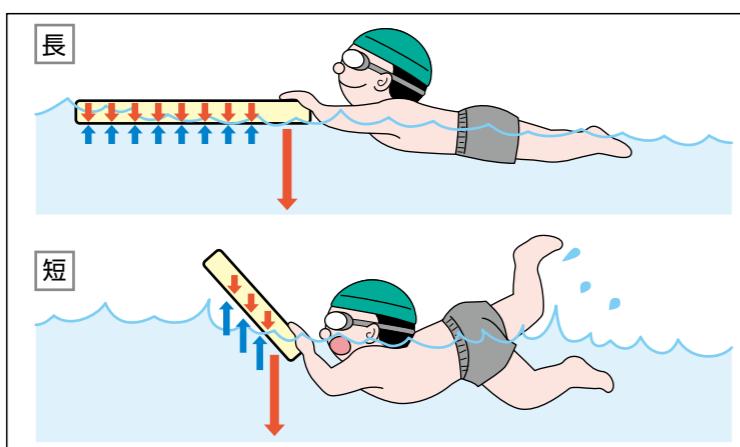
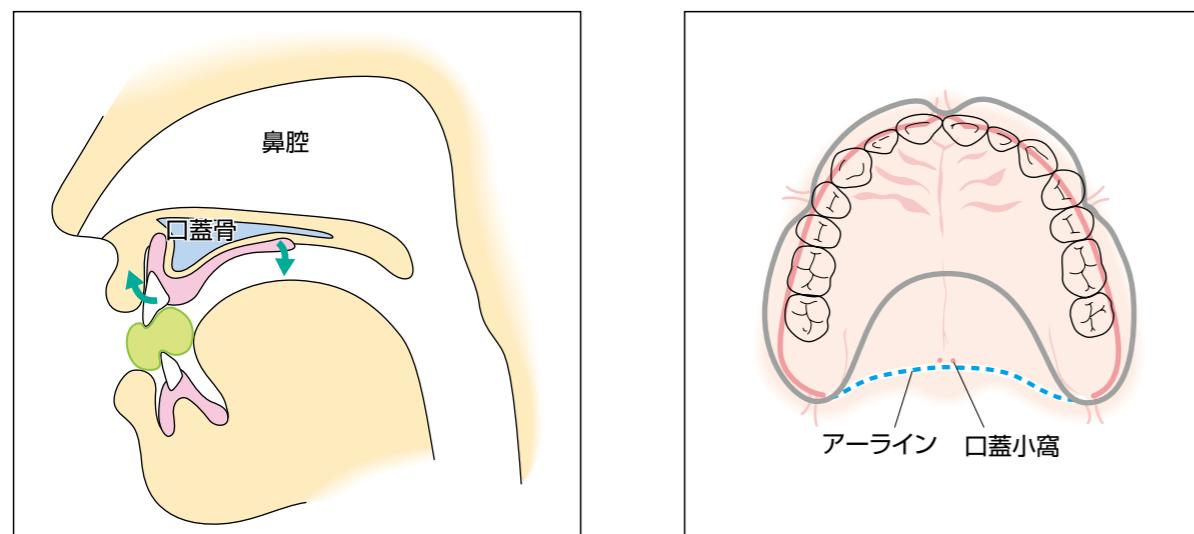
●後縁が長すぎる場合

発音時および嚥下時に鼻腔に空気や食塊が漏れないように軟口蓋が挙上し、鼻咽腔が閉鎖する。よって、床の後縁が長すぎる場合は軟口蓋の挙上のため、封鎖が破られてしまう。



●後縁が短すぎる場合

義歯の被覆面積が少ないため、十分な接着が得られにくい。また、義歯床後縁部は骨の裏打ちがある部位になるため被圧変形量が少なく、封鎖が不十分になりやすい。このような状態で、義歯の前歯部に強い力が加わると矢印の方向に義歯が回転し、義歯脱離の原因となる。

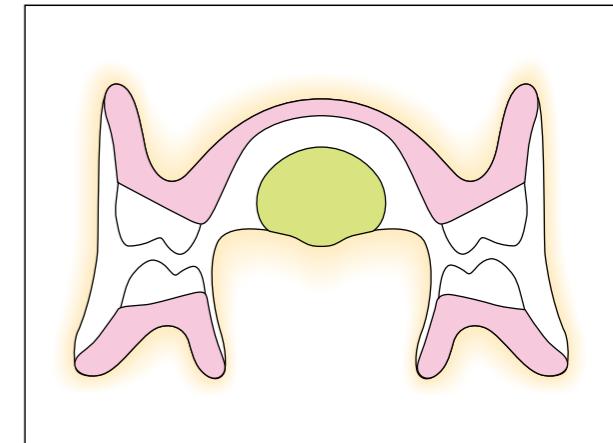


2. 下顎義歯の形態

1) 咬合平面

●咬合平面が適正である場合

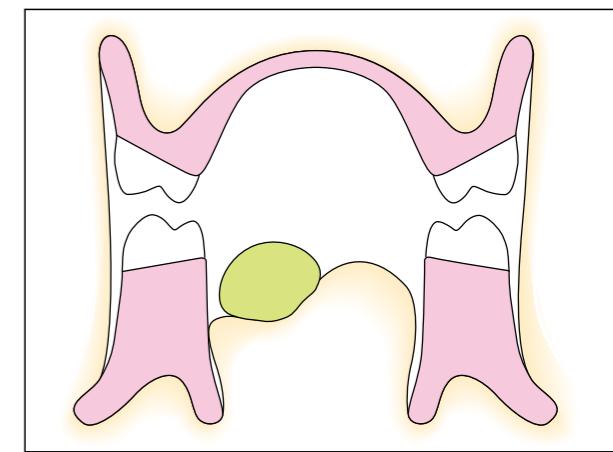
舌によって食塊を咬合面に送りやすい。



●高い場合

咬合平面が舌背より高い。

舌によって食塊を咬合面に送ることが困難である。



●低い場合

咬合平面が舌背より低い。

咀嚼時に舌と頬粘膜を咬みやすい。

